
昨日と、今日と、これからと

桜芽 鈴斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昨日と、今日と、これからと

【Nコード】

N0010R

【作者名】

桜芽 鈴斗

【あらすじ】

僕は、毎日本を読む。題名がなく内容もない。そんな本を毎日開き一生懸命に内容を作る。造る。創る。毎日違う内容を。

「一頁」昔誰かに言われた事」（前書き）

今日は、昔誰かに言われた事を書いた話。

一頁「昔誰かに言われた事」

僕は、読んでいた本を閉じた。読むと言うのは、可笑しいかな？
だってその本は、題名がなく内容もない。そんな本を毎日開き一生
懸命に内容を作る。造る。創る。毎日違う内容を。そんな事をして
いる間に、一日が過ぎる。

今日は、昔誰かに言われた事を書いた話。

あなたは、どう思いますか？

黒いと言うことを。

白いと言うことを。

それは、

光と闇。 昼と夜。 陰と陽。

あなたは、どう思いますか？

コインの表

コインの裏

それは、

絶対に相成れないモノ

あなたは、どう思いますか？

人とヒト。

それは、
常に反発するモノ

あなたは、どう思いますか？

磁石の同じ極どうしのように、付くことが出来ない、不完全な存在を
あなたは、どう思いますか？

結局、あの人は何を聞きたかったんだろう。僕には分からない。
でも、あの人は僕が答えるのを何時までも待ってくれた。

こうして、本にすると何となく分かった気がする。今更だけどあ
の人に会いに行こう。そして、伝えよう。

『あの時の悩んでいた僕を

支えてくれて、ありがとう。』

「一頁」昔誰かに言われた事」（後書き）

お粗末様でした。こんなものしか書けません。

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いてくれると有り難いです。

「二頁「美しいと醜い」(前書き)」

今日は、美しいと醜いについての考えの話。

二頁「美しいと醜い」

僕は毎日、題名がなく内容もない、そんな本を読む。毎日違う内容を、その日一日を使い考える。今日は美しいと醜いについての話。

ある所に、美しくなりたいと思少女が居ました。

彼女が住んでいる国は、美しいモノを愛し、醜いモノを嫌う国でした。醜いモノは全て壊し、殺し、国から無くしました。

彼女は美しくなければ、醜くもないのです。

だから、彼女は何が醜いモノなのか確かめに、国が醜いと決めたものの掃き溜めに行きました。そこで彼女が見たモノは、

自分の国よりも豊かな生活をしている人達でした。

必要最低限以下の物しか無いのに、とても美しく見えてしまいません。

彼女は、それから暇がある度にそこに行っていました。そして、あることに気づきました。

結局、彼女が気づいた事は何だろう？僕は、彼女じゃないから分からない。

でも多分、こういう事じゃないかと思う。

『自分達の考えは、間違ってる。自分達が美しいと思っているモノは醜くて、醜いと思っているモノほど、美しいのだろう。』

二頁「美しいと醜い」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

三頁「選択肢」(前書き)

今日は、摩訶不思議な選択肢の話。

三頁「選択肢」

僕は、毎日本を読む。題名がなく内容もない、そんな本を。毎日違う内容を、その日一日を使い考える。起きて、本を読み、寝るだけの毎日。

今日は、選択肢の話。

ここは、どこだろう。なんで、こんな所に居るんだろう。辺りを見回してもみても、誰も居ない。それどころか、地面が無く、宙に浮いている。

(何なのさ。)

声が出ない。仮に出たとしても、誰も居ないから答える人は居ない。真っ白な空間があるだけだ。

それから少し経った後、真っ白な空間が真っ黒になった。

「何なのさ。」今度は、声が出た。だかそれは、喋ろうとした訳ではなくて心で思ったことだった。

「こんな所は、もう嫌だ。」

そう言って逃げ出した。

また、少し経った頃に真っ黒だった空間に、二筋の光が入った。

一方は、赤い光。命を現すような色。

一方は、白い光。神々しい色。

どっちを選べば、戻れるのだろう。あの、青白い光の場所に。

人は、理不尽な選択が多いと言う。選んだ選択肢の中に、幸福を見いだせば良いのに。

なんと身勝手な事だろう。

三頁「選択肢」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

四頁「告白について」(前書き)

今日は、告白についての話。

四頁「告白について」

僕が毎日開く本は、タイトルは無く、中身は白紙。内容は、毎日考える。

今日は、告白についての話。

告白 心中に隠していたことを、打ち明けて言うこと。

【新選国語辞典第八版（小学館）】より抜粋。

改めて辞書を引くと、そんな事が書いてあった。

告白 それは、愛の言葉。

告白 それは、罪の言葉。

対外の人は、前者の意味が思い浮かぶだろう。それは、間違っていないと思うし、後者に関しては、「何言ってるの?」「と、思う人も居るだろう。

だが、告白という言葉の意味は、心中を打ち明けることだ。愛だろうが、罪だろうが、何だろうがだ。それに、愛の為なら犯罪に手を染める人も居る。

だから、告白は愛の言葉であり罪の言葉である。

ここまで創って、本を閉じた。

僕に告白してくれる人は、いるだろうか?

僕の告白を聞いてくれる人は、いるだろうか？

僕の言いたいことは、

『愛と罪は、向かい合わせ。』

四頁「告白について」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

五頁「後悔」(前書き)

今日は、後悔の話。

五頁「後悔」

僕は、本を開く。毎日話を造り、それだけをして一日を過ごす。今日は、後悔の話。

私は、懺悔をするために教会へ来た。

コンツ、コンツ

「どうぞ。」

私は中に入った。

「今日は、どうしましたか？」

「人を・・・」

「人を？」

「死にそんな人を見捨ててしまいました。」

「それは、どうしてですか。」

「・・・」

(どうしてだろう。)

私は、思い出そうとした。でも、その記憶だけが思い出せない。

「・・・解りません。」

「解らないですか。」

「今にも死にそんな人を見捨てた人が、生きていて良いのでしょうか。そんな人を犠牲にした私が。」
「・・・」
「神父様は、何も言ってくれない。」

「時間を取らしてしまって、すみませんでした。」

そう言っつて、私は懺悔室から出た。

人は、誰かの犠牲の上に成り立っている。それは、親だったり、友人だったり、一度会っただけの人だったり、一度も会った事の無

い人かもしれない。

それは、後悔するようなモノだろうか。明確な悪意を持ってやっている訳ではなく、結果そうなってしまうた事だ。

『それは、後悔するようなモノだろうか。』

五頁「後悔」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

六頁「幸福と不幸」(前書き)

今日は、幸福と不幸の話。

六頁「幸福と不幸」

僕は、本を開く。タイトルが無ければ、中身も無い。その内容を
作ることので一日を過ごす。

今日は、幸福と不幸の話。

こんな言葉を聞いたことは、無いだろうか。

『幸福な家庭は皆同様だが、不幸な家庭は皆様々である。』

大概の場合幸福とは、掴み取るモノである。だが、不幸は持たさ
れる重荷である。

両者をバツクに例えてみよう。幸福は、一つ一つの中身が同じ
く、結果は幸福だ。

不幸は、一つ一つの中身が違い、結果は無限に近くなる。だから
こそ、不幸は様々である。

だが、本質に違いはあれど結局は同じようなモノである。結局自
分で持つしか無いからだ。

僕には、幸福も、不幸も解らない。どちらでもないし、どちらに
もなれないからだ。

だからこそ、僕は自分に問う。

『君は今、幸福かい。それとも、不幸なのかい。』

六頁「幸福と不幸」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

七頁「偽善者」(前書き)

今日は、偽善者の話。

七頁「偽善者」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

八頁「壊れた不完全」(前書き)

今日は、壊れた不完全の話。

八頁「壊れた不完全」

僕は本を創る。毎日、話を一話ずつ。

今日は、壊れた話。

私は、壊れている。体の一部とか脳の一部がではなくて、ヒトとして壊れている。感情がうまく出せないだけだ。

別に、感情が無い訳ではない。怒るようなことがあれば怒るし、悲しいことがあれば悲しい。それが一切出せないのだ。

だから、みんな私が壊れていると言う。

私からすれば、みんな同じなのに。同じなのに。

人は、誰しも不完全である。壊れている。

『たとえ壊れても、

それでも愛してくれますか。』

八頁「壊れた不完全」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

九頁「戦争」(前書き)

今日は、戦争の話。

九頁「戦争」

毎日、一つの題材を決めて話を作る。起きて、造って、寝る。そうしてできた本。

今日は、戦争の話。

戦争　　遙か昔から生物がやってきた醜い争い。

同じモノを求め、お互いがぶつかり合うこと。

いつになっても、止められないモノ。

いつになっても、繰り返されるモノ。

いつになっても、終わらないモノ。

僕の住む国は、戦争の国。とうの昔に理由は無くなったのに、いつまでも戦争をしている。

昔は、理由が無くなれば戦争も終わると思っていた。でも違う。

理由が無くなっても、戦争は終わらない。なんでだろう。

ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。ナンデ。

誰も答えてはくれない。

ヒトは、いつになっても争うことを止めない。

『なんであなたは、戦うの。』

九頁「戦争」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十頁「死」(前書き)

今日は、死についての話。

十頁「死」

僕は、本を作る。それは、白紙の紙に文字を書くこと。それは、とても簡単だが、とても難しいこと。

今日は、死についての話。

死にたい

それが、僕の夢だ。

僕は、通常の人間ではない。かと言って不老不死でもない。ただ普通の人より怪我の治りが異常なだけ。そう、異常なだけ。切り傷はできた直後に、骨が折れても一時間あれば治る。心臓を取り出しても、切り刻んでも痛いだけ。半日寝てれば再生する。ただ、心臓が停止している間は全く動く事ができないから、不死ではないらしいらしい。なぜ、こんな体なのかは分からない。一つ分かっているのは、死ねないと言うことだ。

僕は、死にたい。

『あなたは、

私を殺してくれませんか。』

十頁「死」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十一頁「否定と肯定」(前書き)

今日は、否定と肯定の話。

十一頁「否定と肯定」

僕は、話を読む。自分で創り書いた本を。
今日は、否定と肯定の話。

私とは、何だろう。

モノ	そうだ。	(違う。)
ヒト	違う。	(そうだ。)
人形	そうだ。	(違う。)
本	違う。	(そうだ。)
存在	そうだ。	(違う。)
虚無	違う。	(そうだ。)
有	そうだ。	(違う。)
無	違う。	(そうだ。)

私は、それら全てであり、それら全てではない。
それら一つ一つであり、それらの結び付きである。
完全であり、不完全である。
どれかが抜けてはいけないし、全て抜けてもいい。

私とは、私であり私ではない。

僕は、何なのだろう。

『僕は、

否定であり肯定である。』

十一頁「否定と肯定」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十二頁「夢」(前書き)

今日は、夢の話。

十二頁「夢」

僕は、本を作る。一日ずつ、一つの話を作る。
今日は、夢の話。

私は、夢を見る。いつも同じ夢を。

何故か閉じこめられていて、そこに誰かが助けにきてくれる夢。

私はお礼を言おうとするが、分からない。その人を知っているはずなのに、名前が思い出せない。

「大丈夫。」

あの人は、そう聞いてくる。でも、私は名前が分からない。

あの人は、誰だろう。

私と同じ顔をしたあの人は、誰だろう。

人は、誰しも自分の中にもう一人の自分がある。

それは、自分であって自分でない。それは、誰だろう。

十二頁「夢」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十三頁「欲望」(前書き)

今日は、欲望の話。

十三頁「欲望」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十四頁「記憶」(前書き)

今日は、昔の記憶の話。

十四頁「記憶」

僕は話を創る。起きて作り、造って寝る毎日。こんな日々の意味があるのだろうか。

今日は、昔の記憶の話。

壊れてしまった。僕の日常が。

壊れてしまった。誰かの手によって。

いつも声をかけてくれる人も、いつも見てくれていた人も、いつも側にいた人も、いつも慰めてくれた人も、もういない。

壊れてしまった、景色。

壊れてしまった、日常。

まるで割れたガラスのように、どんなに拾っても、どんなに掬っても、二度と同じにはならない。

なんで壊れてしまったのだろう。ただ普通に生活していただけなのに。

何でだろう。

壊れたモノは直らない。たとえそれが、どんなに大切だったモノでも。

十四頁「記憶」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十五頁「努力」（前書き）

今日は、努力する事の話。

十五頁「努力」

僕は、本を造る。自分の見た事や感じた事、思っている事を話にして。

今日は、努力する事の話。

努力。目的の為に、自分の能力を尽くして打ち込むこと。

それはまるで、ゴールのない永遠のマラソンのようなこと。不毛で、無駄なこと。

努力をするヒトは、この世に何人もいる。
だが、どんなに努力しても無理な事もある。

それでもヒトは希望にすがり、努力する。それが無駄な事だと気付かずに、何度となく繰り返す。

結局は、無駄なのに。

僕は、努力をするヒトを何人も見てきた。そのたびに、どんなに努力しても越えられない壁に突き当たってみんな諦めた。

だから僕は、努力なんて無駄だと言う。

十五頁「努力」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十六頁「認めて」(前書き)

今日は、認めてもらいたいという話。

十六頁「認めて」

僕は造る。僕だけの本を。誰に読ますのではなく、自分の読む本を。

今日は、認めてもらいたいという話。

私は、認めてもらいたい。世界に、世間に、親に、そして何よりも自分自身に。

私という存在が、ここに居るといふ事を。
私が、生きていていいといふ事を。

私は、ここに居る。ここに存在している。生きている。
でも私は、それを認めない。認めてくれない。私が存在しているといふ事を、誰一人として認めてくれない。

私は、一人で生きている。世界に、世間に、親に、何より私自身に認めてもらう為に。
僕は、誰かに認められているのだろうか。ここに存在している事を。

『僕は、ここにいる。』

十六頁「認めて」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十七頁「天才と凡人」(前書き)

今日は、天才と凡人の話。

十七頁「天才と凡人」

僕は、本を創るだけの生活を繰り返す。毎日、毎年。こんな生活を始めてからどれ位経ったのだろう。

今日は、天才と凡人の話。

私は、天才を知っている。私がどんなに努力しても、絶対に届かない。そんな奴。

努力して、努力して成し遂げた事を、いとも簡単にやってしまう奴。

私は、あいつが羨ましい。凡人の私とは違って、何の努力をしなくても何でも出来てしまうあいつが。

僕は、天才を知っている。僕がどんなに追い抜いても、必ず努力して追いついてくる。そんな奴。

到底追いつけないぐらいに追い抜いても、気づいたら努力で追いついている奴。

僕は羨ましい。凡人の僕とは違って、無駄な事をせずにひたすら努力し続けられるあいつが。

大体の人は、自分に無いモノを欲しがる。それ故、自分の才能に気づかない。

十七頁「天才と凡人」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十八頁「善悪」(前書き)

今日は、善悪の話。

十八頁「善悪」

僕は、話を作る。誰かに読んで貰いたい訳じゃなくて、誰かに読んでもあげたくて。

今日は、善悪の話。

善と悪。体を成す2つ。矛盾した2つ。だが、お互いになればならない2つ。

大体の人の考えは、善がいい事で悪が悪い事だと言うだろう。だけど僕は、善も悪も変わらないと思う。

一方がいい事だと言ってやっていても、もう一方からしたら悪い事かもしれない。また、その逆も言える。

用は捉え方であって、それを取り除けば2つとも同じだ。少なくとも僕はそう思っている。

僕のやっている事は、ヒトにとって善なのだろうか。悪なのだろうか。僕には分からない。結局は、他人が決める事なのだから。

十八頁「善悪」（後書き）

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

十九頁「自由」(前書き)

今日は、自由の話。

十九頁「自由」

僕は、話を作る。違う話を毎日造る。

今日は、自由の話。

私には自由になる資格はない。

私は、多重人格の一人だ。

他の人格は全て殺した。そうすれば自由になれると思って。

でも、自由にはなれなかった。

他の人格を殺すうちに、母体の脳を傷つけてしまい植物状態にしてしまったのだ。

まるで、何をしても自由になれないと言うように、私の努力は無駄になってしまった。

結局、あのまま過ごしていた方が良かったのだろうか。

いや、良かったに違いない。あの頃の方がまだ自由だった。

今頃気づいても、遅い。もう戻ることはできない。

自分自身に枷を付けた私に、自由になる資格はない。

僕は、どこにも行けない。

『こんな僕に、』

『自由はあるのだろうか。』

十九頁「自由」(後書き)

誤字・脱字等ありましたら、感想に書いていただけると有り難いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0010r/>

昨日と、今日と、これからと

2011年11月16日22時39分発行